

曹洞宗海晏山宛陵寺季刊紙

第5号/平成18年春

# はすのは

平成18年4月8日 発行人 浦辺世紀

発行所 海晏山宛陵寺伝道部 〒859-4527松浦市今福町仏坂免958宛陵寺内  
電話；0956-74-0139 FAX；0956-74-1170 e-mail；cent@fine.ocn.ne.jp  
環境；PowerMacG4(867) MacOS9.2.2 AdobePageMaker6.5J Canon-

◎  
是



川久保賢仁さん「出家得度式」より (H17 / 12 / 8)

コラム

## 龍水

◆「仏道をならふというは、自己をならふなり。自己をならふというは、自己をわするなり。自己をわするということは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるというは、自己の身心、および他己の身心をして脱落せしむるなり」(正法眼蔵・現成公案の巻) ◆私達は全てにおいて、どこまでも自己中心である。自分がいかに正しいかと、全身全霊をもって説くのであるが、たぶん限りなく自己中心である◆自己をわすれ万法に証せらるるとは「自分の命は今すでにこの世に受け入れられている」と自覚し、これで完結する事である。それを身体で表現すれば「坐禅」になる◆ところが坐禅をしながらもやっぱり自己中心で、ただの石ころになれない。痛い足を自分の都合で解決せねばならないのだから・(世)

# 十一観音様と私

滑栄免 磯本 保

私は何故か山深い静寂な地の寺院を訪ね歩くことが好きで、各地の寺を巡りました。

そんな折り、あるお寺で十一観音様に会い、その姿の美しさに惹かれ、それからは西国三十三番観音霊場を始め、三重・和歌山・大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・福井など、幾多の十一観音様に会ってきました。

その中で今日も特に思い出深い観音様をいくつか紹介します。室生寺（奈良県室生村）の十一観音様は、高さは二メートル女性のような感じの観音様で重文であります。この寺は女人高野ともいい、石楠花の寺としても有名であります。



(彼岸寺の十一 観音)

長谷寺（奈良県桜井市初瀬）は伊勢街道の有名な寺で、本尊の十一観音様は高さが十メートルもあります。聖林寺（奈良県桜井市）の十一観音様は高さ二メートルの国宝であります。この観音様はむかし、大神宮の神宮寺の本尊であったようですが、明治維新の神仏分離令で寺は破壊され、田んぼの溝に捨てられていたのを聖林寺の住職が迎えて安置されたのであります。

道明寺（大阪府道明寺町）は菅原道真公の伯母さんの寺で、道真公が京都から太宰府に下る途中立ち寄られたという尼寺で、この本尊十一観音様は高さが一メートル五十センチ、道真公の作と伝えられています。観音寺（京都府田辺町）は駅から歩くこと四キロで、国宝の十一観音様は高さが一メートル八十センチ、優しい感じの観音様です。

禅定寺（京都府宇治市）の十一観音様は高さが二メートル、美しく輝いておられます。

彼岸寺（滋賀県高月町）は琵琶湖の北、静かな農村の中に観音堂があります。この十一観音様は高さが一メートル七十センチ、国宝で、多くの観音様の中で最も姿の美しい観音様です。この観音様を一目見ようと、遠来の人々が多く訪れます。作家の井上靖さんも何度か訪れられ、彼岸寺十一観音の本も書いておられます。戦国時代に戦火で寺が焼けたとき、村人が観音様を土中に埋めて守ったと伝えられています。その埋めた場所も保存されています。私もこの住職様と二時間ほど話をし、観音堂を後にしました。帰りの車窓からは伊吹山がとても近くに見えていました。

# ご案内

## ◆ 積尊降誕会（花祭り） 法要

4月8日の午前10時よりお勤めいたします。小さな誕生仏に甘茶をそそいで、お釈迦様の御生誕を荘厳する法要です。法要後のお説教は、唐津市の東雲寺ご住職、渡辺隆山老師においで頂きます。お参りいただいた方にのみ、甘茶と花の種のセットをさし上げます。どうぞ多くのご参詣をお願い致します。

## ◆ 八日講

5月・6月・7月は、各8日に八日講法要をお勤め致します。特に5月8日は清女会総会も開催いたしますので、お繰り合わせご参詣頂きますようご案内致します。

## ◆ 祥月命日回向

三仏忌(降誕会・成道会・涅槃会)、彼岸会、施餓鬼会、八日講でご先祖の「祥月命日」の回向を勤めております。毎月行う公式法要の中で卒都婆(ソトバ)を書いて戒名を読み上げてご回向させていただきます。合同回向となりますが、敬しい法縁と致します。法要日の前日まで受け付け致します。

## ◆ 全国梅花流奉詠大会

今年も御詠歌の全国大会が、北海道札幌市をメイン会場に開催されます。宛陵寺からも10名の方が参加されます。

5月31日より6月4日まで住職が引率する予定です。

## ◆ 大本山参拝旅行のお誘い（紙をご覧下さい）

10月31日〜11月3日までの三泊四日で、三年半ぶりに大本山参拝旅行(団参)を計画致しました。今回は横浜の大本山総持寺と、福井の大本山永平寺の両本山に参籠致します。チラシに申込用紙を付けています。どうか多くのご参加をお願い致します。不明な点は気軽にお問い合わせ下さい。

## ◆ 慈眼堂納骨供養の受付について（紙をご覧下さい）

慈眼堂の設備等が整い、納骨堂としての申込みを受け付けています。紙の規約に従い利用して頂きたく存じます。また、現在本堂・牌堂にお預かりしている遺骨も、所轄庁の条令に従い慈眼堂（耐火構造の建物）に移さなければなりませんので、大切な遺骨を預かっている責任上、この際契約を更改致します。個にご連絡を致しますので、よくご検討下さるようお願い致します。

## ◆ 福田会（お袈裟を縫う会）

毎月、第二と第四の水曜日、午前9時より16時まで、お袈裟を把針しています。ご協力頂ける方、宜しくお願い致します。

仏事の深意

「坐 禅」 第5回

「無」になるということ

「無」になるといって、よく勘違いをして、なぐんにも考えない事と思われている。それは違う。健康な身体と心であれば、前の物が見える、外の音が聞こえる、寒暖が感じられる、線香の香りがする、足も痛い、そしてそれによって自然にものが考えられる。坐禅をしている時の、これが、生命活動の表情である。そしてこれは個人としての人間に関係がない。これが生きている姿、様相で、わたしの意志と関係なしである。これを「不思（無）」という。

人間は、何とかしよう、どうにかしようと、猛烈になる。信仰もまた、自分のご都合になりがちだ。幸・不幸は自分勝手判断だ。大自然から見たら何でもない。坐禅は精神鍛錬ではない。自分を、自分の都合の良いようにすることではない。坐禅は徹底的に自分の都合をあきらめる事である。

だから、坐禅堂に入ったら、生活を忘れる心構えは最低でも必要だ。他に誰がいても関係ない。しゃべる必要もないので黙道場という。自然と正身静坐に入っていく。そこに自我は無い。足が痛くても動かさず、自然に生かされたままのペー・スに任せきる。この坐った姿を「不思底（無）」といい、ホトケという。これ以上の安心は他にはない。

『坐禅会は、毎週土曜日の夜7時より一時間ほどです。老若男女どなたでも無料で自由に参加できます。初めてのの方は要領を説明しますので20分前までに。』 (世)

【護持会評議員総会を開催します】

4月27日の午後より開催します。17年度の護持会会計決算、18年度の予算審議や事業計画などを審議します。護持会へのご意見、ご要望など有りましたら、左記の各地区役員・評議員へ早めにお伝え下さい。

【護持会役員紹介】

- |     |            |     |            |
|-----|------------|-----|------------|
| 会長  | 高橋祐一 (仲町)  | 評議員 | 渡口誠一 (北東三) |
| 副会長 | 石井光 (土肥浦)  | 評議員 | 寺澤正夫 (人柱)  |
| 副会長 | 福浦長生 (寺上)  | 評議員 | 山口喜二 (飛島)  |
| 会計  | 浦辺勝 (新本町)  | 評議員 | 磯本保 (滑栄)   |
| 監事  | 寺澤初義 (北東一) | 評議員 | 渡口次夫 (木場一) |
| 監事  | 丸田精一 (平尾)  | 評議員 | 徳永貞義 (浜脇)  |
| 評議員 | 永戸博士 (北東二) | 評議員 | 松田一徳 (元浦)  |
| 評議員 | 田中一行 (白浜)  | 評議員 | 田中重行 (坂野)  |
| 評議員 | 坂本晴二 (仏坂)  | 評議員 | 末竹敏雄 (木場二) |
| 評議員 | 百枝義人 (仲町)  |     |            |
- ※評議員は就任順

【清女会総会を開催します】

5月8日の10時からの八日講法要で開催します。組織が整って初めての総会です。17年度の会計決算や今後の活動などについて話し合います。清女会の会員の方は多数お参り下さいますようご案内申し上げます。